

原爆詩5編朗読 被爆楽器で伴奏

東広島で賀茂高生

東広島市の賀茂高の生徒が、同市西条栄町の芸術文化ホールくららで、被爆バイオリンの演奏に合わせて原爆詩を朗読した。東広島

青少年オーケストラ運営委員会の主催で、約20人が聞き入った。

同高演劇部の1、2年生4人が、「にんげんをかえ



原爆詩を朗読する賀茂高生(左)

せ」と訴える峠三吉の詩や栗原貞子の「生ましめんかな」など5編を朗読。広島で被爆したロシア出身の音楽教師が愛用し、広島女学院歴史資料館(広島市東区)で保存、継承されているバイオリンの音色が彩った。「言葉に表れている衝撃や悲惨さ以上に、被爆者の気持ちを想像して表現した」と2年小玉若葉さん(17)。オーケストラの指導者有谿英彰さん(65)は「高校生に芽生えた継承の息吹が頼もしい。同世代に広めてもらいたい」と期待を語った。

催しは5日であった。収

令和3年(2021年)1月8日 中国新聞掲載

※中国新聞社の許諾を得ています

本校演劇部の生徒が、「芸術文化ホールくらら」で原爆詩を朗読しました。

録した映像を動画投稿サイトに近く公開する予定。